

コンバインと巻き込まれ



田んぼが黄金色を帯びてきました。
稲刈りの秋。1年間眠っていたコンバインの出番です。
同時に、長い眠りを経て、機械がちゃんと動くか心配な場面でもあります。

コンバインは、乗用トラクタ、歩行トラクタ、運搬車に次いで最近5年間で、4番目に死亡事故の多い農業機械となっています(*1)。

死亡事故の原因の多くは転倒・転落なのですが、コンバインについては、可動部(刈取・搬送部、脱穀部、排わら処理部)の露出があるため、可動部での巻き込まれの事故を軽視することができません。

コンバインの可動部における事故は、死亡に至らなくても重傷化しやすい傾向があり、ある調査によると、その20~30%は入院が必要な怪我になるとされています(*2)。

通常、可動部における巻き込まれ事故は、エンジンをかけたままの状態、可動部に不注意に近づいてしまうときに発生します。そのため、「エンジンをOFFにしてから整備点検や清掃を行う」という指導が多いのです。

しかし、コンバインの手こぎ作業に限っては、エンジンをONにした状態で可動部に接近して作業する他ありません(!)。

そこで、手こぎ作業時に、作業者が実施できる対策は2点です。

- ①ブカブカの服装や軍手を避けること
 - ②フィードチェーンに手が接近しないような稲の投げ込みをすること
- 衣服の袖口や軍手が引っかかって、「しまった!」と思ったときには、時すでに遅しです。

稲刈りという、年に1回の限られた作業だからこそ、作業手順の再確認が重要です。事故によって、実りの秋が台無しになることは、誰も望むところではないでしょう。

追記：現在、コンバインの新機種では、上述の事故対策として手こぎ部の緊急即時停止装置が標準装備となっています。

参考資料

(*1) 農林水産省調べ

(*2) 富田宗樹ら「農業者アンケート調査結果に基づいた自脱コンバインの事故分析」